

農業経営の展望（案）

～今後10年間に定着が見込まれる技術体系に基づく農業経営モデル～

1 農業経営の展望の意義及び内容

(1) 食料・農業・農村基本法においては、「国は、効率的かつ安定的な農業経営を育成し、これらの農業経営が農業生産の相当部分を担う農業構造を確立する」ために必要な施策を講ずることとされている（同法第21条）。

(2) このため、各地域の特性に応じた担い手育成施策の展開、今後の農業経営の展開方向についての関係者の共通認識の形成を図る観点から、技術水準の向上や農地の利用集積等の成果を反映した「効率的かつ安定的な農業経営」の具体的な姿を、「農業経営の展望」として例示的に示してきたところである。

さらに、これを参考としつつ、都道府県等においては、農業経営基盤強化促進法に基づき、目標とすべき農業経営の基本指標を定め（同法第5条及び第6条）、地域の実態に即した多様な農業経営の姿を示しているところである。

(3) 今回の食料・農業・農村基本計画の見直しに当たっても、地域段階の取組を支援する観点から、10年程度後を目標として、今後の新品種・新技術の開発、農地の利用集積等の成果を反映した「効率的かつ安定的な農業経営」の具体的な姿を、「農業経営の展望」として例示的に示すこととする。

各地域段階においては、気象条件、作物の組合せ等の実態に即した農業経営の展望を示しつつ、現場に根ざした課題として構造改革に向けた取組を展開していくことが重要である。

(4) なお、経営指標の試算においては、農産物価格、農業資材価格等については、直近の水準（価格変動のあるものは原則として過去5ヶ年の中庸3ヶ年平均）を用いている。

効率的かつ安定的な農業経営：主たる従事者の年間労働時間が他産業従事者と同等であり、主たる従事者一人当たりの生涯所得が他産業従事者と遜色ない水準を確保し得る生産性の高い営農を行う経営

（参考）都道府県の農業経営基盤強化の促進に関する基本方針において示された農業経営の類型 1,841類型（平成16年2月現在）

基本指標の例（E県）

経営体別	営農類型別	経営規模
平地農業地帯	土地利用型	水稻＋麦＋大豆＋水稻作業受託
		10.0 ha
		さといも＋水稻＋麦
		7.5 ha
		レタス＋水稻＋麦
		6.5 ha
	施設型	ほうれんそう＋水稻
		11.0 ha
		いよかん＋不知火
		3.0 ha
		うんしゅうみかん＋いよかん＋キウイフルーツ
		3.3 ha
		施設うんしゅうみかん＋うんしゅうみかん＋いよかん
		2.0 ha
		施設いちご＋水稻
		5.0 ha
		施設きゅうり＋水稻
		5.0 ha
		施設トマト＋水稻
		5.0 ha
	組織経営体	施設バラ（ロックウール）
		0.4 ha
		施設デルフィニウム
		0.4 ha
	土地利用型	施設OHユリ
		0.4 ha
		施設花壇苗
		0.4 ha
	土地利用型	水稻＋麦＋大豆＋水稻作業受託
		50.0 ha

注：平地農業地帯、農山村農業地帯等の農業地帯別に合計44類型を作成

2 試算結果

(1) 水田作

水稻、麦の新品種、大豆狭畦栽培の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で15～25ha、法人経営、集落営農経営で34～46ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～900万円。

(2) 畑作

てん菜の狭畦直播栽培、甘しょ挿苗機、さとうきび全茎式植付機の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営において、畑作4年輪作・3年輪作で36ha、甘しょ作で8.0ha、茶業で4.6ha、法人経営（さとうきび作）で40ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～950万円。

(3) 野菜作

野菜用管理ビークル、ねぎ収穫機、超低コストハウスの導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営において、葉茎菜類で5.0～7.5ha、施設栽培で0.5ha、法人経営において、畑作・根菜類複合で100ha、稲作・葉茎菜類複合で20ha、施設栽培で0.5ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は650～950万円。

(4) 果樹作

傾斜地用作業機、低樹高栽培の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で1.5～2.7ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～750万円。

(5) 酪農

フリーストール・ミルクングパーラー方式、ほ乳ロボットによ

るほ育、TMR（完全混合飼料）方式による飼料給与の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で経産牛40～80頭、法人経営で経産牛250頭。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～900万円。

(6) 肉用牛

育成・肥育期間の短縮、自動給餌機の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営において、肉専用種繁殖経営で繁殖雌牛80頭、肉専用種肥育経営で肥育牛150頭、乳用種育成肥育一貫経営で肥育牛400頭。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～650万円。

(7) 養豚

人工授精、自動給餌機の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で繁殖母豚150頭。主たる従事者1人当たりの年間所得は900万円。

(8) 有機農業

害虫の忌避効果がある黄色蛍光灯の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で2.5ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は750万円。

(9) 花き

超低コストハウス、短茎多収栽培の導入等の技術の進展を見込んで試算を実施。経営規模は、家族経営で0.4ha。主たる従事者1人当たりの年間所得は600～650万円。

(別紙) 農業経営の展望の概要

営農類型	水田作						
経営形態	家族経営			法人経営(構成農家2戸)			集落営農経営
作付体系	単作	水稲単作 麦・大豆2毛作	水稲・麦2毛作 麦・大豆2毛作	単作	水稲単作 麦・大豆2毛作	水稲・麦2毛作 麦・大豆2毛作	水稲単作 麦・大豆2毛作
導入を見込んだ技術体系	水稲いもち病抵抗性品種、春小麦初冬播栽培による合理的な作付体系の確立	水稲いもち病抵抗性品種、麦早生多収品種、大豆狭畦栽培	水稲いもち病抵抗性品種、麦早生多収品種と早播栽培による作期の前進、大豆狭畦栽培	水稲いもち病抵抗性品種、汎用型コンバインを中心とした機械化体系	水稲いもち病抵抗性品種、麦早生多収品種、汎用型コンバインを中心とした機械化体系、大豆狭畦栽培	水稲いもち病抵抗性品種、麦早生多収品種と早播栽培による作期の前進、汎用型コンバインを中心とした機械化体系、大豆狭畦栽培	水稲いもち病抵抗性品種、直播の導入による作期拡大、麦早生多収品種、汎用型コンバインを中心とした機械化体系、大豆狭畦栽培
経営規模	25ha 水稲 14ha 麦 8ha 大豆 4ha	16ha 水稲 11ha 麦 5ha 大豆 5ha	15ha 水稲 10ha 麦 15ha 大豆 5ha	46ha 水稲 31ha 大豆 15ha	38ha 水稲 25ha 麦 12ha 大豆 12ha	34ha 水稲 23ha 麦 34ha 大豆 11ha	44ha 水稲 29ha 麦 14ha 大豆 14ha
粗収益	2,250万円	2,000万円	2,300万円	4,850万円	4,550万円	5,000万円	5,250万円
経営費	1,550万円	1,300万円	1,550万円	3,050万円	2,850万円	3,250万円	2,300万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	1,850時間	1,500時間	1,800時間	1,750時間	1,650時間	1,800時間	1,850時間
主たる従事者 1人当たり所得	700万円	700万円	750万円	900万円	850万円	850万円	600万円
生産性	(北海道田作平均との対比)	(全国田作平均との対比)					
10a当たり収量	現状程度～5割増 (水稲) (麦)	現状程度～1割増 (水稲) (麦・大豆)	現状程度～3割増 (水稲) (麦)	現状程度～1割増 (水稲) (大豆)	現状程度～1割増 (水稲) (麦・大豆)	現状程度～3割増 (水稲) (麦)	現状程度～1割増 (水稲) (麦・大豆)
10a当たり労働時間	8割程度	5割程度	6割程度	4割程度	5割程度	5割程度	5割程度
10a当たり費用合計	8割程度	7割程度	7割程度	6割程度	6割程度	7割程度	—

注：生産性の各平均値には作物統計及び生産費統計を使用。10a当たり労働時間及び費用合計は、作物別の値を面積で加重平均。

(主たる従事者以外)

準基幹労働賃金	110万円×2人
構成員出役賃金	10万円×27人
剰余金配当	4万円/10a

営農類型	畑 作				
経営形態	家族経営				法人経営 (構成農家3戸)
作付体系	畑作4年輪作	畑作3年輪作	甘しょ作	茶業	さとうきび作
導入を見込んだ技術体系	てん菜の狭畦直播栽培、早掘適性のあるでん粉原料用馬鈴しょ品種、豆用コンバイン、GPSを活用した麦用コンバインの効率利用	てん菜の狭畦直播栽培、早掘適性のあるでん粉原料用馬鈴しょ品種、GPSを活用した麦用コンバインの効率利用	甘しょ挿苗機・小型ハーベスタ等による機械化一貫体系	乗用型摘採機等による機械化一貫体系、早中生品種の組合せによる年間5回摘採	全茎式植付機・株出管理機による省力化、ハーベスタ等による機械化一貫体系
経営規模	36ha 麦 9ha 豆類 9ha てん菜 9ha 馬鈴しょ 9ha	36ha 麦 12ha てん菜 12ha 馬鈴しょ 12ha	8.0ha 甘しょ 8ha 野菜 3ha	4.6ha	40ha
粗収益	2,800万円	2,850万円	1,750万円	2,100万円	4,700万円
経営費	1,850万円	1,900万円	1,000万円	1,500万円	2,700万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	1,850時間	1,850時間	1,950時間	1,600時間	1,850時間
主たる従事者 1人当たり所得	950万円	950万円	750万円	600万円	650万円
生産性	(北海道畑作平均との対比)		(全国平均との対比)		(全国平均との対比)
10a当たり収量	1割減～2割増 (てん菜直播) (麦)	1割減～2割増 (てん菜直播) (麦)	2割増	—	1割増
10a当たり労働時間	7割程度	8割程度	5割程度	—	2割程度
10a当たり費用合計	9割程度	9割程度	9割程度	—	6割程度

注：生産性の各平均値には作物統計及び生産費統計を使用。10a当たり労働時間及び費用合計は、作物別の値を面積で加重平均。

営農類型	野 菜 作					
経営形態	家族経営		法人経営 (構成農家5戸)	法人経営 (構成農家3戸)	家族経営	法人経営 (構成農家2戸)
作付体系	葉茎菜類	葉茎菜類	畑作・根菜類複合	稲作・葉茎菜類複合	施設果菜類	施設葉菜類
導入を見込んだ技術体系	野菜用管理ビークル・キャベツ収穫機等による機械化一貫体系、高品質成型苗の利用による省力化・生育斉一化	ねぎ収穫機等による機械化一貫体系、高品質成型苗の利用による省力化・生育斉一化、共同選別施設の利用	うね立ては種同時作業機・根菜類収穫機等による機械化一貫体系、共同選別施設の利用	野菜用管理ビークル・キャベツ収穫機等による機械化一貫体系、高品質成型苗の利用による省力化・生育斉一化	ハイワイヤーによる土耕長期取り栽培、超低コストハウス、共同選別施設の利用	超低コストハウス、流下方式による水耕栽培システム
経営規模	7.5ha キャベツ 5.0ha レタス 1.2ha 緑肥作物 1.3ha	5.0ha ねぎ 4.0ha ほうれんそう 1.0ha	100ha にんじん 10ha だいこん 10ha 麦 20ha てん菜 20ha 馬鈴しょ 20ha 豆類 20ha	20ha キャベツ 7ha ほうれんそう 1ha 水稻 12ha	0.5ha トマト 0.5ha	0.5ha サラダナ 0.5ha
粗収益	2,550万円	3,000万円	12,650万円	5,450万円	2,650万円	5,100万円
経営費	1,800万円	2,400万円	7,750万円	3,350万円	1,850万円	3,800万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	1,750時間	1,700時間	1,550時間	1,850時間	1,950時間	1,950時間
主たる従事者 1人当たり所得	700万円	650万円	950万円	700万円	800万円	650万円
生産性	(全国平均との対比)					
10a当たり収量	現状程度	現状程度	現状程度	現状程度	—	—
10a当たり労働時間	6割程度	2割程度	6割程度	5割程度	—	—
10a当たり費用合計	9割程度	7割程度	8割程度	8割程度	—	—

注：生産性の各平均値には農業経営統計調査「野菜・果樹品目別統計」及び生産費統計を使用。10a当たり労働時間及び費用合計は、作物別の値を面積で加重平均。
10a当たり収量は、野菜の収量のみを現状と比較。

営農類型	果 樹 作					
経営形態	家族経営					
作付体系	かんきつ		りんご	なし	果樹複合	観光果樹園
導入を見込んだ技術体系	傾斜地用作業機、摘果剤、樹冠上部摘果の導入による連年安定生産	傾斜地用作業機、摘果剤、樹冠上部摘果の導入による連年安定生産	わい化栽培、訪花昆虫による受粉、高所作業車	省力型棚栽培、人工受粉機	もも低樹高栽培、フェロモン剤、高所作業車	熟期の異なる品種の組合せによる収穫期間の長期化
経営規模	2.7ha みかん 2.7ha	2.2ha みかん 1.5ha 中晩かん 0.7ha	2.4ha	2.5ha	1.5ha ぶどう 1.0ha もも 0.5ha	1.6ha ぶどう 1.6ha
粗収益	1,250万円	1,100万円	1,350万円	1,650万円	1,200万円	1,900万円
経営費	650万円	500万円	800万円	1,050万円	550万円	1,150万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	1,850時間	1,900時間	2,000時間	2,000時間	1,700時間	1,950時間
主たる従事者 1人当たり所得	600万円	600万円	600万円	600万円	650万円	750万円
生産性	(全国平均との対比)					
10a当たり収量	現状程度	現状程度	3割増	現状程度	現状程度	1割増
10a当たり労働時間	6割程度	6割程度	7割程度	5割程度	4割程度	6割程度
10a当たり費用合計	7割程度	7割程度	9割程度	7割程度	6割程度	9割程度

注：生産性の各平均値には農業経営統計調査「野菜・果樹品目別統計」を使用。10a当たり労働時間及び費用合計は、作物別の値を面積で加重平均。

営農類型	酪 農			肉 用 牛			養 豚
経営形態	家族経営		法人経営 (構成農家3戸)	家族経営			家族経営
作付体系				肉専用種 繁殖経営	肉専用種 肥育経営	乳用種育成 肥育一貫経営	繁殖・肥育 一貫経営
導入を見込んだ技術体系	繋ぎ飼い・パイプ ライン方式、TMR 方式による飼料 給与、たい肥化・ 液肥化によるふん 尿処理	繋ぎ飼い・パイプ ライン方式、たい 肥化・液肥化によ るふん尿処理	フリーストール・ ミルクングパー ラー方式、ほ乳ロ ボットによるほ 育、TMR方式に よる飼料給与、ス ラリーによるふん 尿処理	自動給餌機、子牛 育成期間短縮、分 娩間隔の短縮、コ ントラクターによ る飼料生産の外部 化、たい肥化によ るふん尿処理	低・未利用飼料資 源の活用、肥育期 間の短縮、たい肥 化によるふん尿処 理	自動給餌機、低・ 未利用飼料資源の 活用、肥育期間の 短縮、たい肥化に よるふん尿処理	人工授精、自動給 餌機、たい肥化・浄 化処理によるふん尿 処理
経営規模	経産牛 80頭 飼料作物 64ha	経産牛 40頭 飼料作物 18ha	経産牛250頭 飼料作物 171ha	繁殖雌牛80頭 飼料作物 25ha	肥育牛 150頭 飼料作物 3ha	肥育牛 400頭 育成牛 160頭 飼料作物 20ha	繁殖母豚 150頭 年間出荷頭数 3,390頭
粗収益	5,250万円	3,100万円	15,750万円	2,600万円	7,350万円	10,800万円	9,850万円
経営費	4,500万円	2,500万円	13,050万円	2,000万円	6,700万円	10,200万円	8,950万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	2,000時間	2,000時間	2,000時間	2,000時間	2,000時間	2,000時間	2,000時間
主たる従事者 1人当たり所得	750万円	600万円	900万円	600万円	650万円	600万円	900万円
生産性	(北海道平均との対比)	(都府県平均との対比)	(北海道平均との対比)	(全国平均との対比)			(全国平均との対比)
単位当たり生産量	1割増 (1頭当たり乳量)	1割増 (1頭当たり乳量)	1割増 (1頭当たり乳量)	1割短縮 (分娩間隔)	2割短縮 (肥育期間)	1割短縮 (肥育期間)	1割増 (1母豚当たり出荷頭数)
労働時間	8割程度 (1頭当たり)	9割程度 (1頭当たり)	4割程度 (1頭当たり)	3割程度 (子牛1頭当たり)	4割程度 (肥育牛1頭当たり)	6割程度 (肥育牛1頭当たり)	6割程度 (肥育豚1頭当たり)
費用合計	8割程度 (生乳1kg当たり)	8割程度 (生乳1kg当たり)	8割程度 (生乳1kg当たり)	7割程度 (子牛1頭当たり)	8割程度 (肥育牛1頭当たり)	8割程度 (肥育牛1頭当たり)	9割程度 (肥育豚1頭当たり)

注：生産性の各平均値には「畜産生産費」及び牛乳乳製品統計等を使用。

営農類型	有機農業	花 き		
経営形態	家族経営	家族経営		
作付体系	露地・施設野菜	切り花	鉢物	
導入を見込んだ技術体系	黄色蛍光灯、シルバーマルチ、太陽熱土壌消毒、センチュウへの対抗植物（緑肥）を導入した輪作体系	超低コストハウス、ばら受け共同選花、パケット低温流通	超低コストハウス、短茎多収栽培、ばら受け共同選花	超低コストハウス、底面給水装置付ベンチシステム、ポットティングマシン
経営規模	2. 5ha たまねぎ 1. 0ha だいこん 1. 0ha 施設野菜 0. 7ha 緑肥 1. 1ha	0. 4ha ばら 0. 4ha	0. 4ha ｽﾌﾟﾚｰｷﾞ 0. 4ha	0. 4ha シクラメン 0. 4ha ｲﾝﾊﾟﾁｴﾝｽ 0. 4ha
粗収益	1, 650万円	3, 200万円	4, 300万円	4, 200万円
経営費	950万円	2, 600万円	3, 650万円	3, 600万円
主たる従事者 1人当たり労働時間	2, 000時間	2, 000時間	2, 000時間	2, 000時間
主たる従事者 1人当たり所得	750万円	600万円	650万円	600万円